

# 目 次

国語 Vol.1

## 第一章 習得編

1 文学的文章(1)(隨筆).....	例題	確認問題	練成問題	4
2 文学的文章(2)(隨筆).....	例題	確認問題	練成問題	8
3 文学的文章(3)(隨筆).....	例題	確認問題	練成問題	12
4 文学的文章(1).....	例題	確認問題	練成問題	16
5 說明的文章(2).....	例題	確認問題	練成問題	20
6 説明的文章(3).....	例題	確認問題	練成問題	24
7 詩(1).....	例題	確認問題	練成問題	28
8 詩(2).....	例題	確認問題	練成問題	32
9 漢字・語句(1)(漢字の成り立ち/部首/画数/筆順).....	例題	確認問題	練成問題	36
10 文法(1)(ことばの単位).....	例題	確認問題	練成問題	40

## 第二章 定着編

11 文学的文章(4)(小説).....	例題	確認問題	練成問題	44
12 文学的文章(5)(小説).....	例題	確認問題	練成問題	48
13 文学的文章(6)(小説).....	例題	確認問題	練成問題	52
14 説明的文章(4).....	例題	確認問題	練成問題	56
15 説明的文章(5).....	例題	確認問題	練成問題	60
16 説明的文章(6).....	例題	確認問題	練成問題	64
17 詩(3).....	例題	確認問題	練成問題	68
18 詩(4).....	例題	確認問題	練成問題	72
19 漢字・語句(2)(音読みと訓読み/熟語の組み立て).....	例題	確認問題	練成問題	76
20 文法(2)(文節相互の関係).....	例題	確認問題	練成問題	80

## 第三章 演習編

21 文学的文章 (7) (隨筆) .....	84
22 文学的文章 (8) (隨筆) .....	88
23 文学的文章 (9) (隨筆) .....	92
24 說明的文章 (7) .....	98
25 說明的文章 (8) .....	102
26 說明的文章 (9) .....	108
27 短歌・俳句 (1) .....	114
28 短歌・俳句 (2) .....	118
29 漢字・語句 (3) (類義語・対義語) .....	122
30 文法 (3) (文の成分) .....	124

## 第四章 実戦編

31 文学的文章 (10) (小説) .....	128
32 文学的文章 (11) (小説) .....	134
33 文学的文章 (12) (小説) .....	140
34 説明的文章 (10) .....	148
35 説明的文章 (11) .....	154
36 説明的文章 (12) .....	160
37 古典 (1) .....	166
38 古典 (2) .....	170
39 漢字・語句 (4) (ことわざ・慣用句・四字熟語) .....	174
40 文法 (4) (品詞) .....	176
付録：漢字練習 1 ~ 40 .....	180



# 第一章 習得編

## 1 文学的文章 (1) (随筆)

### 例題 1

〈宮下正美「自然の深い知恵に学ぼう」より〉

- (1) 本文を大きく三つに分けるとすると、①第二の部分と、②第三の部分はどこから始まりますか。それぞれ最初の八字を書きぬいて答えなさい。
- (2) —線部「いらぬ世話はしないことだ」とあります。なぜ「いらぬ世話」をしてはいけないのですか。その理由を書いて答えなさい。
- (3) 本文の主題を表していることばを本文中から五字で書きぬいて答えなさい。

### 解法のポイント

- (1) **段落構成** 文学的文章では、場面の変化によって段落が決まります。場面の変化は、時間、場所、登場人物、心情の変化として表現されますので、これらの点に注意しましょう。
- 第一段落：母がニワトリのひなを見せながら教えてくれたこと。  
 第二段落：父がカイコのマユを見せながら教えてくれたこと。  
 第三段落：（この文章の主題）母や父の教えから「私」が考えたこと。
- (解答)** ①生まれこきょうの ②ひなでもカイコで
- (2) **内容理解** 父は特に説明していませんが、その理由は母が言つたのと同じでしょう。
- (解答例)** 自分の力でマユから出ないと、強く生きていけないと。
- (主題)** この文章の主題は最後の一文に表現されています。その中で強調されている言葉を探しましょう。
- (解答)** 自分の力で

## 例題②

(2) — 線②「半分は山の仕事」とは、どういうことですか。次から最も適切なものを選び、記号で答えなさい。

ア 柴づけ漁では、川での漁の作業と同じぐらい、山で柴を刈る作業も大事だということ。

イ 柴づけ漁では、まず山で柴を刈るばかりでなく、川でえものもつかまえるとということ。

ウ 柴づけ漁では、山で柴を刈るばかりでなく、川で漁を行って山で柴を育てているのはということ。

エ 柴づけ漁では川の生き物をつかまえるが、その生き物を育てているのは山だということ。

(3) 本文中からは次の二文がぬけ落ちています。これを元にもどす場合に適切な場所を本文中から探し、この文の直前に来る一文の最後の十字（句点も字数に數えます）を書きぬいて答えなさい。

〈むしろ「美しいな」と思った。〉

### 解法のポイント

(1) **内容理解** 「『住む』というのがミソ」に着目します。柴をたばねたものをすぐ引き上げたのでは、えものがそこに住みつくひまがありません。

(2) **内容理解** ふつう、漁は川や海で行われる作業が仕事の大半だと思われがちです。しかし、柴づけ漁では柴をたばねたものの出来に結果が左右されるため、山の仕事も漁の重要な作業であることがわかります。

(3) **脱文挿入** 脱落した文を元に戻す問題の場合、脱落した文の最初のことばに注意します。例題では「むしろ」の働きに着目しましょう。

(1) — 線①「柴をたばねたものを川にしづめ、一週間から十日たつたところで引き上げる」とあります。これは、引き上げるまでの一週間から十日の間にどうなることを待っているのですか。書いて答えなさい。

〈俵万智「四万十川のウナギ」より〉

# 確認問題

ウ 初夏

エ 晩夏

- 1 次の文章を読んで、あととの間に答えなさい。

- (2) —線①「ひどくはない」について、次のそれぞれの問い合わせに答えなさい。  
 ① 内容理解 どんなことが「ひどくはない」というのですか。「こと」  
 という形で書いて答えなさい。

5

- ② 内容理解 「ひどくはない」のにうぐいすが「私」の家に来る目的を、「ため」という形で書いて答えなさい。

10

- ③ 内容理解 —線②「目ざましい勢い」が最もよく表されている一文を本文中から探し、その最初の八字を書きぬいて答えなさい。

15

- ④ 心情 —線③「ふとんで□をふさいだ」とあります。このときの「私」の気持ちとして適切でないものを次から一つ選び、記号で答えなさい。

〈庄野潤三「春の花・うぐいす」より〉

- (1) 設定 「私」が本文を書いているのはいつごろの季節だと考えられますか。次から最も適切なものを選び、記号で答えなさい。
- ア 盛冬 イ 初春

- (2) 心情 うぐいすをおどろかせたくない。  
 イ うぐいすの声を喜んだ自分が情けない。  
 ウ うぐいすに思う存分鳴かせてやりたい。  
 エ うぐいすの鳴き声をもっと聞きたい。

次の文章を読んで、あととの間に答へなさい。

〈黒沼ユリ子「バイオリンと歩むなかから」より〉

20 15 10 5

- (1) 心情 — 線① 「正面に白髪の教授陣がズラッと居並ぶ客席を前にステージに立った私」の気持ちとして最も適切なものを次から選び、記号で答へなさい。

ア 期待 イ 絶望 ウ 満足 エ 緊張

- (2) 心情 — 線② 「熱心に指導してくださった先生には『申しわけない』と思った」とありますが、「私」がこのように思った理由をまとめた次の文の□に入る適切なことばを、「自分がから」という形で、二十五字以内（読点も字数に数えます）で書いて答へなさい。  
（先生がせつからく熱心に指導してくれたのに、□。）


(3)

内容理解 — 線③ 「言葉をさしこぎる」のここで意味として最も適切なものを次から選び、記号で答へなさい。

ア 先生がとつぜん話すのをやめてしまうこと。

イ 先生が私の話に割りこんで、話し始めること。

ウ 先生が私の話とは異なる内容の話を始めること。

エ 先生が私の話の内容について注意をあたえること。

(4)

内容理解 — 線④ 「それ」が指していることばを、本文中から五字で書きぬいて答へなさい。
